

令和2年度第2回多摩市まち・ひと・しごと創生総合戦略検討委員会
(書面開催)の結果について

資料1

「多摩市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の第1期5年間の総括評価について		
項目	各委員の評価	質疑・意見
基本目標1 安定した雇用を創出する ～多様な就業を支える環 境づくり～	B	商店街では、今年はコロナ禍の影響を受け撤退や 廃業が続出している。 行政による更なる商業者支援が要望されている。
	B	創業だけではなく、廃業の動向にも注視すべき。 BS多摩の在籍は有限で、市内定着が難しいとい う課題は、ソフト事業充実で解消されたのか。 目標値に届かない項目は、単にPR不足なのかニ ーズとミスマッチなのか見極める必要あり。
	B	企業誘致が増えた点は大きい。
	C	数値目標が2項目とも60%未満で進んでいない。 KPIも達成率は良くない。 施策にしても、サテライトオフィス等需要はある のでどう市が絡んだら良いのかがポイントだと思 う。 雇用面で、多摩市の強い特長はシニアである。他 のニュータウンに比べて圧倒的に高齢者が多い。 この雇用面での活用が市の政策の特徴にもなる。
	B	項目全体の達成率は60%であり評価はBとなる。 女性の就労に関するセミナー開催数については5 か年で22回、平均4.4回の開催実績であり評価が できるものと思われる。 企業誘致の推進については当初の目標値が低いた め、今後目標値の妥当性について検討してほしい。
	B	女性の市民雇用契約者数の伸びが小さく目標の半 数程度であるためPRを増やすことが必要である と考える。 シルバー人材センターでの登録者数が増え、シ ニア世代の活躍の場が広がっている。 コロナの影響で仕事を失った人も多くいるため その人たちへの支援が今後は重要になると考える。
B	「女性が就労しやすい環境の整備」において市民 への周知は課題だと思う。「にゃんとも子育て LINE」(令和2年8月～)の運用が始まったので、 「多摩市からのお知らせ」機能を活用しながら、 今後はもっと妊娠期～乳幼児のいる家庭に情報 が伝わるといいと思った。	
	委員会評価：B	

項目	各委員の評価	質疑・意見
基本目標 2 新しい人の流れをつくる ～新たな交流と若い世代の呼び込み～	B	若い世代の動きは大変流動的。 対策も常に変化が必要かと思われる。 小さなきっかけが人のつながりを広げる。
	B	市の魅力として謳う事柄は、本当に他市との差別化ポイントになっているのか検証が必要かも。 新たな交流では、目玉となる観光が少ない中、何を指すのか。市外からの流入に加え、市内での流動を活発化させる視点があってもよい。 近居、同居については踏み込んだ施策を期待。
	B	東京一極集中が続き、結果として若い世代の転入数が増えたのは幸いだった。
	A	数値目標で達成したただ一つの項目がある。 KPI も達成率は半分以上が達成をしている。 施策にしても、シティセールスの取り組みは、5年間の大きな成果だと思う。 若者会議を、次の現役世代の活動に発展出来たことも、評価出来る。 市民みんなで多摩市の魅力を発見し、それを発信していく地道な取り組みが期待される。
	B	項目全体の達成率は、「公的賃貸住宅事業者との協力体制の構築」、「特色ある公園の数」をCとして考慮して70%であり、評価はBとなる。 「空き家実態調査の実施」、「市特産品等の開発数」については目標設定が消極的であり、A評価は不当と思われる。 「他自治体との交流・共同事業数」、「ロケ撮影受入件数」については、5か年の平均実績を考慮してB評価が妥当であると思われる。
	B	若者が地域活動に参加していることは良い傾向であると思う。また、継続的に関わっていることも評価できる。 街のPR では SNS を使用して行われてきたが、若者への情報発信としては今後も SNS の活用は重要なツールであると考ええる。
	B	シティセールス・SNS からは落ち着いた印象を受ける。ターゲットを意識したアップデートがなされるといいのでは。多摩市に住むメリットのアピールや、当事者世代のロールモデルとなるような活動・人物の紹介などを（できれば当事者世代が）発信していけるといい。
委員会評価：B		

項目	各委員の評価	質疑・意見
基本目標 3 子育て・子育てをみんな で支える ～仕事と子育てを両立で ける地域づくり～	B	受け入れ施設拡充の次は保育士の地位向上を後押しすることも大切かと。
	B	取り組み内容は他市と比べて遜色ない印象。その中で差別化できるポイントをおさえて、PRする必要がある。本来届けたい方へ届いているのか。子育ては乳児から学生まで。乳児期間より生徒学生期間が長い。注力すべき点はどこにすべきか。
	B	保育サービス支援の充実は大きい。
	B	ただ一つの数値目標が60%未満で進んでいない。KPIはちょうど半分以上が達成をしている。施策にしても、いくつもの取り組みが地道になされていますが、中でもESD教育は、多摩市の大きな特徴となる取り組みである。また、ベネッセとの取り組みも、地域企業との特徴を出した取り組みとして伸ばしていくべき内容だと思う。
	B	項目全体の達成率は71%であり、評価はBとなる。コロナなどの特殊要因はあるが、全体的に取り組みに良好と思われる。「Web会議システム等を利用し、国内外の学校等との交流を行っている学校数」についてはWeb会議システム自体に利用されない要因があるものと思われるため、項目設定において検討するべきと思われる。
	B	保育サービスが全体的に拡充したことは評価できる。保育園、放課後の児童の居場所づくりは共に現在ある施設の定員を増やすことで児童の受け皿を増やしているが、今後は人数が増えても保育の質を落とさないようにしていくことが重要であると考ええる。
B	子育て当事者の課題は子育ての他の領域にもまたがることも多い。親子の交流促進を担う「子育てマネージャー」が市内各所に配置されているのが多摩市の特徴だが、横断的に連携を図る存在になっていくと、当事者にとっての「子育てしやすさ」につながると思う。	
委員会評価：B		

項目	各委員の評価	質疑・意見
<p>基本目標 4 いつまでも安心して暮らし続けられるまちをつくる ～“健幸”に暮らせるまちづくり～</p>	B	防犯(見守り)カメラの設置・管理を市が率先してできないか？
	B	<p>健幸まちづくり、市民にどの程度定着しているのか。市民目線での取り組みが見えにくい。</p> <p>健幸と言いつつ体を動かす身体的健康面での取り組みが目立つ印象。買い物を楽しむ、散歩を楽しむ、景色を楽しむ、人と話す等の心の健康にどう取り組むのかが次期への課題かもしれない。</p>
	B	<p>現状の KPI で A にする理由は分かるが、事務局としてはその楽観を戒めるべきである。当初は基本目標 4 が基本目標 1～基本目標 3 の基盤という位置づけであった。しかし未だに NT 再生は遅い。永山再開発の資料も拝見したが、5 年スパンの総合戦略で、結果が「・・・の取り組みが推進されている」では、遅すぎると内々では評価すべきである。</p>
	B	<p>せっかくの数値目標が改善されていない。</p> <p>KPI も、達成した項目は半分に届いていない。</p> <p>施策については、多摩市の看板であるスマートウェルネスシティの関連から多くの取り組みがなされているが、全体として A の評価が下せる内容までは行っていないと思う。</p> <p>しかし、取り組み内容そのものは、充実した力の入った取り組みだと評価する。</p>
	A	<p>項目全体の達成率は 84% であり、評価は A となる。</p> <p>数値目標の設定が意欲的であり未達となっているが、80% 代を維持しており B 評価が妥当と思われる。</p> <p>「多摩市は住みやすいと答える高齢者の割合（多摩市世論調査 60 歳以上）」については目標値が消極的であり、B 評価が妥当と思われる。</p>
	A	<p>身近な相談拠点が目標に達していないが、支援を必要としている人の多くは近くで相談できることで相談をしやすくなると考えるため、今後も継続して増やしていくことが重要であると考えます。</p>
	A	<p>「多摩市健幸都市宣言」の制定などで、市民への周知も広まっているように感じる。</p> <p>今後も世代ごとにアプローチを工夫しながら、多様な取り組みがなされていくといいと思う。</p>
	委員会評価：B	